

内容項目名	正直，誠実（内容項目A－（2））		
資料名	「手品師」（出典「5年生の道徳」文溪堂）		
学校名	君津市立八重原小学校	指導者	井上 佑季子

1 学習指導案

小学校5年1組 道徳学習指導案

平成29年10月18日（水）5校時

（1）主題名

正直，誠実

（2）ねらい

夢か約束かで揺れる手品師の迷いを通して，誠実とは何かについて考え，自分にも他人にも明るい心で生きようとする態度を育てる。

（3）主題設定の理由

本主題は，内容項目A－（2）「正直，誠実」の「誠実に，明るい心で生活すること。」に関わるものである。

価値観の多様化により，多種多様な「常識」が存在する現代社会において，他者と関わり，新たな価値を作り上げていくことが次世代を担う子どもたちに求められている。この時期の児童は，高学年として委員会活動に参加したり，行事において準備や運営を担当したりと，リーダーとして人前に立って活動することが増えてくる。他者と関わりながら，周囲と自分自身にも誠実に行動することが，今後の自信となるであろう。このような経験を通して，様々な意見に気づき，自分にとっての新たな価値を見出してほしいと考えている。

本学級の児童は，素直に発言し，委員会活動等にも責任を持って取り組む姿が見られる。しかし，つい意地を張って友達に正直になれなかったり，優先順位がわからなくなってすべきことを後回しにしてしまったりするなど，誠実とは言えない部分も見られる。口では立派なことを言うけれど，実際に行動が伴わず，意見がぶつかり合って対立してしまうこともあった。そこで，他人ごとではなく我がこととして物事をとらえ，発言することで積極的に関わってほしいと考える。

（4）展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (5)	1. 本時の学習の方向を知る。 ○先日，アンケートを取りました。「誠実」についてです。	・うそをつかないこと ・真面目であること	・アンケート結果を提示することで本時のねらいとする価値への意識付けをする。
展開 (30)	2. 資料を読み，話し合う。 ○今日は，「手品師」という資料を通して「誠実」について考えます。	誠実について考えよう	・言い回しになじみのない言葉も使われているので，補足しながら範読する。

			<ul style="list-style-type: none"> ・手品師が迷っている場面までの資料を提示することで、結末への想像を膨らませる。
	<p>○手品師は、どのような人物ですか。</p> <p>◎あなたが手品師ならば、どうしますか。また、それはなぜですか。</p> <p>○この行動の中で、最も誠実だと思う行動をグループで一つ決めましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手品師は大きなマジックショーに出るのが夢。 ・腕がたしか ・貧乏 ・男の子を喜ばせることができる。 ・二つの選択で迷っている。 ・先に約束したから、男の子と会うべきだ。 ・自分の生活や夢が優先だ。 ・男の子を探して、大劇場まで一緒に行き、ステージに立つ自分を見せる。 ・やっぱり、約束した以上は男の子と会うのが誠実だ。 ・自分の生活以上に大切なものはない。 ・男の子のことも、自分自身のことも両方かなえる方法だと約束も果たせて夢もかなえられるからいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手品師の人柄や生活の状況、夢や願いなど、児童に発表させて板書することで、手品師の状況を学級で共有する。 ・自分の将来が約束された舞台と、男の子とした約束との間で迷っていることをおさえる。 ・ワークシートに自分の立場を明らかにさせたうえで、立場ごとに理由を発表させる。 ☆手品師の立場に立って、自分の考えを持つことができたか。(ワークシート) ・グループで一つに絞らせることで、自分の意見をはっきりさせ、様々な状況を考えながら選ぶことができるようにさせる。 ・ホワイトボードに記入し、各班の意見を可視化し、全体での共有をスムーズにする。
終末 (10)	<p>3. 自分の生活を振り返り、ワークシートに記入する。</p> <p>○今日の学習を通して、これからどんな自分になっていきたいですか。振り返って書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合えば、いろいろな方法が出て、問題が解決できるとわかった。これから話し合って生活していきたい。 ・自分は夢を選ぶと考えたが、友達の意見を聞いていると、約束をした男の子の気持ちも考えたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が変わったことや新たに発見したこと、迷っていることも書いてよいことにする。 ・数人発表し、今後への生かし方を確認する。 ☆誠実について、自分なりの考えを持ち、今後に生かそうとしているか。(ワークシート)

(5) 他の教育活動との関連

- ・ 帰りの会において、友達の道徳的な行為を見つけてノートに記入する活動を継続することで、自分自身でも価値を認識しながら行動する素地づくりを行う。
- ・ 自然体験学習において、公共の場での過ごし方、グループ活動などの場面で、二者択一型の問題解決を行うことで、第三の解決方法を合意形成できるように促し、実体験へとつなげていく。

2 事後検討会

(1) 授業記録（展開2 中心発問より一部抜粋）

- T あなたが手品師ならば、どうしますか。また、それはなぜですか。ワークシートに書きましょう。
(児童は記入)
- T では、夢をかなえるために、大劇場に行く、という決断をした人は立ちましょう。
- S 自分だったら、夢が叶うということがうれしすぎて、男の子のことは忘れてしまう。
- S 夢だし、今しかチャンスはないから、大劇場に行くと思います。
- S 夢を叶えて、帰ってきたら男の子のところに行きます。
- S 二度とないチャンスかもしれないし、大劇場に立つことを願って腕を磨いてきたから、大劇場に行きます。
- S 帰ってきたら男の子には謝ればいい。
- S 自分が手品師だったら、大劇場ですばらしい手品をして、逆に「こんなにすごい人だったんだ。」と逆に感動させたい。
- T 優しくしてくれたおじさんが、すごい手品師だったんだと男の子に思わせたい、ということだね。以上、大劇場に行く、という人たちの意見でした。さて、そりゃあないよ、という顔しているHくん、意見が言いたいですね。約束を守って、男の子と会うという人たちは立ちましょう。
- S 約束をしたし、男の子は手品師を待っているから、男の子に会いに行きます。
- S 同じです。(多数)
- S 男の子と先に約束したから、守らないといけないからです。
- S 大劇場に立つ人は他にもいるだろうと思うからです。
- S 昨日約束したのに大劇場に行くのは、男の子に対して優しくないからです。
- S 男の子にまた会って、楽しくさせたい。
- T 男の子はどんな顔をしていたの。
- S 笑顔。
- T また笑顔にさせたい、ということだね。
- S もっともっと腕を磨けば大劇場に出られると思うし、男の子がかわいそうだから。
- T またチャンスはある、ということかな。
- S うん。
(省略)
- T 男の子との約束も守りたいし、大劇場にも行きたいよね。でも、どちらでもなかった人が実はいます。どうぞ。
- S 大劇場に行って、手品をして、その後男の子に会いに行けばいいと思います。
- T 実は、最初は違う意見だったんだよね。男の子に大劇場に来てもらえばいいという考えでした。でも、時間は間に合うかなという話になったんですね。
(意見を板書する)
- どうしてこう考えたの？
- S 両方叶うって思って。
- T そうだね、両方叶うんだよね。でも迷っちゃったんです、時間もない、男の子を探して連れて行けるのかなって。
- T さて、いろんな人が、いろんなことを考えました。今から、最も誠実だなと思う行動をグループで一つ決めてもらおうと思います。

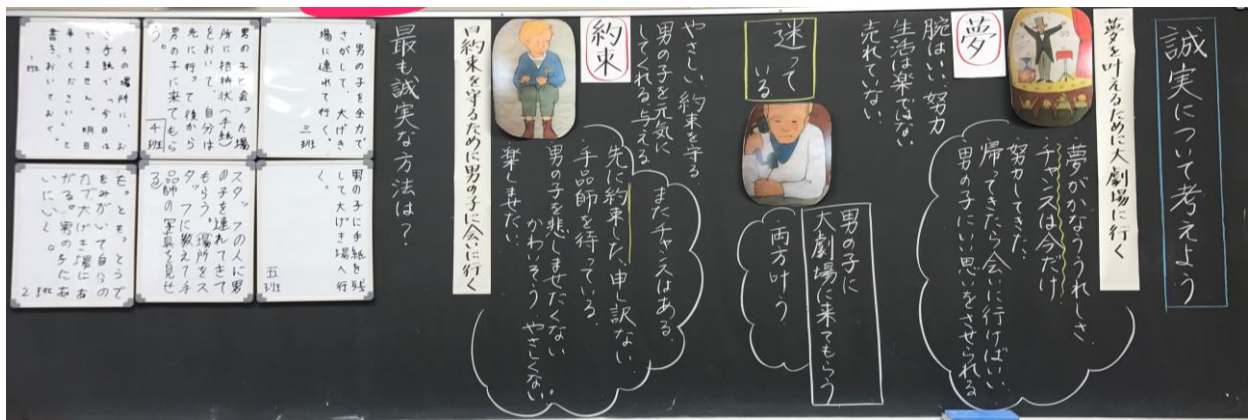
(2) 授業の感想

(児童の感想)

- ・ 約束を守ることがすごく大切で、難しいということを学んだ。もっと考えて約束したり、発言したりしようと思った。
- ・ 最後までいい方法を考えることが大切。登場人物の気持ちになりきって考えると、状況がよくわかってくると思った。
- ・ 友達と約束をするときは、守れないかもというリスクも一緒に伝えようと思った。
- ・ 私は「誠実」とはとても難しいことだなと思った。このような状況があったら、より「誠実」な方法を見つけていこうと思った。
- ・ 誠実とは、自分の夢へ向かって頑張ることでもあるし、約束を守ることでもある。友達との約束は必ず、あの手この手を考えて守れるようにする。
- ・ どちらもやりたいけど、どちらかを我慢しないと悩み潰れてしまうことがわかった。授業中、私が「手品師」だったらうれしさのあまり男の子を忘れてしまうと思った時、自分ってそういうところが悪いところなんだなと思い、直そうと思った。約束をした男の子の気持ちを忘れないようにしないといけないと思った。

(保護者の感想)

- ・ すべての子供たちがしっかりと理解し、自分の意見を持ち、どうすることが最も誠実であるのかを一生懸命考えている姿は大変感動しました。
- ・ 主人公の心情を想像して、自分の考えや思いを、皆発表していました。それぞれの意見があり、勉強になりました。このように授業公開して見てもらうことは、子供たちの成長につながるよい機会だと思いました。
- ・ 発表するときに全員立って意見を言い、同じ意見の人は座るといのはとてもいいなと思いました。授業で初めての笑顔を見ることができました。



3 本事例の活用に関する留意点

(1) 資料について

本資料は、手品師が結局男の子との約束を選び、手品を披露している場面で終わる。しかし、あえて結末を知らせず、友人からの電話の途中までを掲載した資料を作成し、配付した。これにより、より手品師の迷いを自分のこととすることにつながったと考えている。

(2) グループでの話し合いについて

あえてグループで一つの行動を決めさせることで、合意形成を狙った。手品師の置かれている状況をしっかりと理解し、それぞれの立場もわかった上で話し合うには話し合う時間の確保が必要不可欠である。ホワイトボードに記入して黒板に提示することでそれぞれの「誠実」を可視化し、その掲示物を活用して終末に向かうことが望ましい。